

秋田高専第4回共同教育研究会
平成26年12月6日

産学官民連携による地域活性化の取り組み

～岩手ネットワークシステムの活動紹介～

INS（岩手ネットワークシステム）事務局長
岩手大学工学部 教授 小川 智

自己紹介

- 昭和33年 神奈川県横浜市生れ
- 昭和52年 筑波大学第一学群自然科学類入学
- 昭和56年 筑波大学大学院理工学研究科入学
- 昭和58年 日本ゼオン(株)入社(研究開発センター)
- 昭和63年 筑波大学化学系準研究員
- 平成 2年 筑波大学化学系助手
- 平成 4年 岩手大学工学部助手
- 平成 5年 岩手大学工学部講師
- 平成 6年 岩手大学工学部助教授
- 平成18年 岩手大学工学部教授
- 平成23年 岩手大学理事・副学長(研究・環境担当)
- 平成26年 岩手大学工学部教授(副学部長)



理学博士

専門分野 有機元素化学

(6つの柱)

有機材料化学、有機電気化学、構造有機化学、
有機合成化学、創薬化学、高分子材料化学

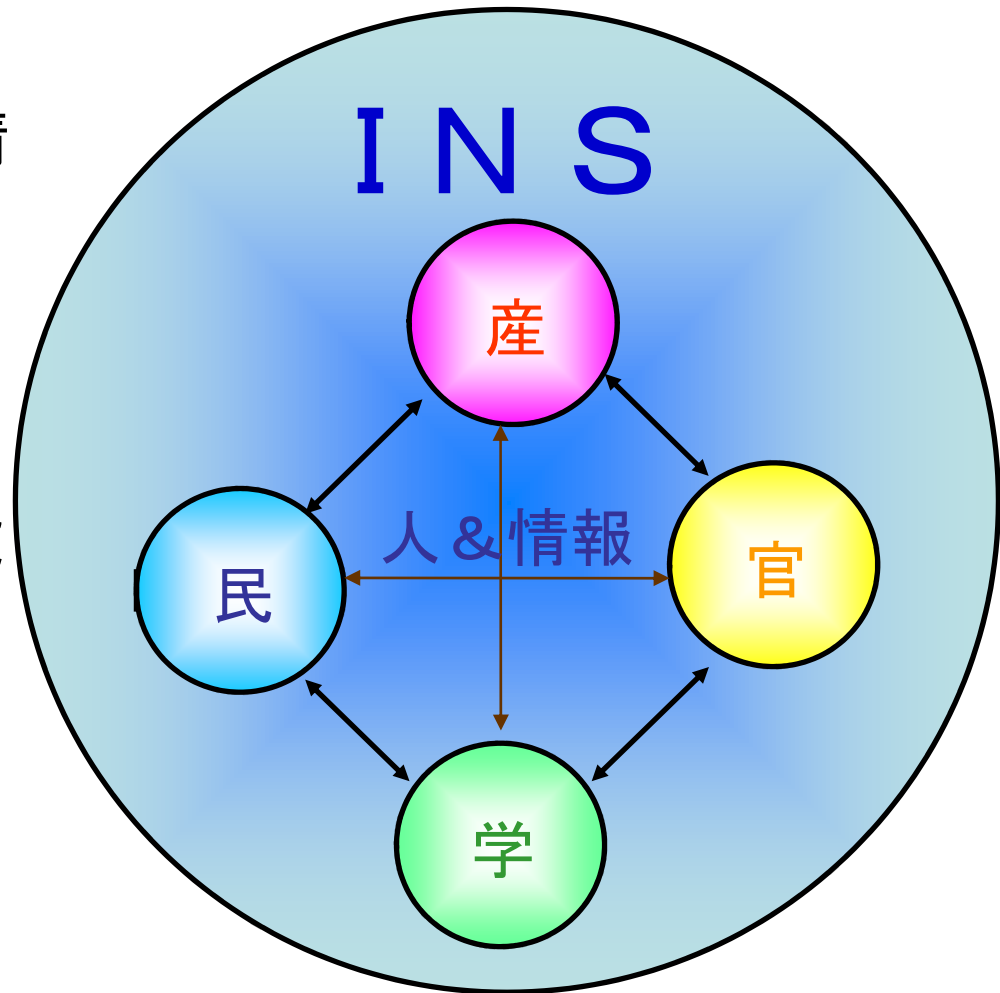
岩手県の現状



- ・北東北地方(寒冷地)
- ・東京から550km (仙台から200km)
- ・面積: 15,000km² (第2位/47都道府県)
(山林が全体の60%)
- ・人口: 133万人 (第32位)
- ・自治体: 13市、16町、5村
- ・産業別就業者割合:
 - 農林水産業: 14%
 - 製造・建設業: 30%
 - 商業・サービス業: 56%
- ・工業出荷額: 2.350兆円 (H20)
- ・県民平均所得(2003年度): 第37位
- ・大学: 国立大学法人1校、県立1校、
私立3校

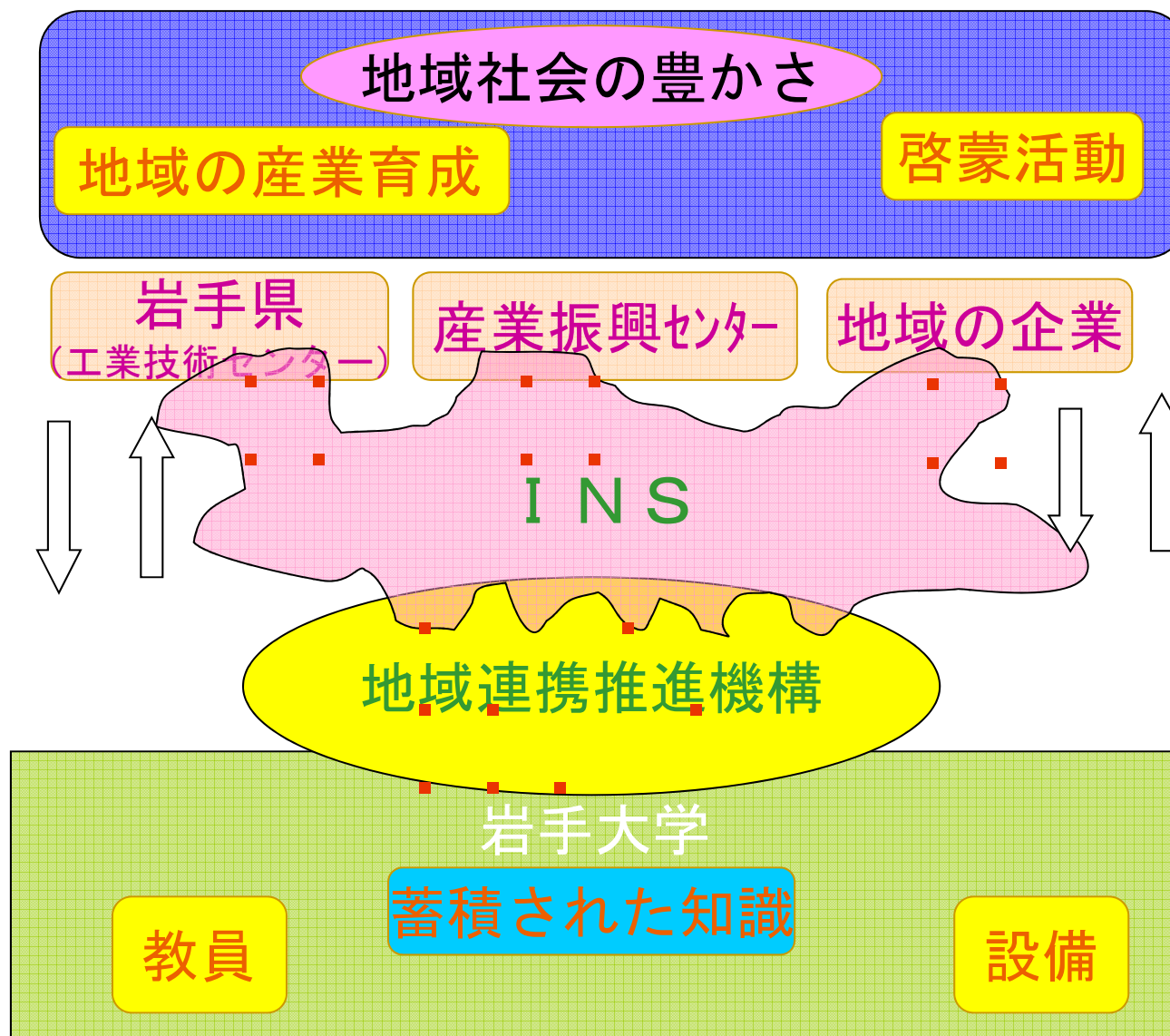
岩手県における科学技術および研究開発に関する人および情報の交流・活用を活発化し、共同研究を推進し、もって科学技術および産業の振興に資することを目的として1992年3月に設立された。

岩手県内の科学技術及び研究開発に関わる**産官学民**の**人々の交流の場**です。



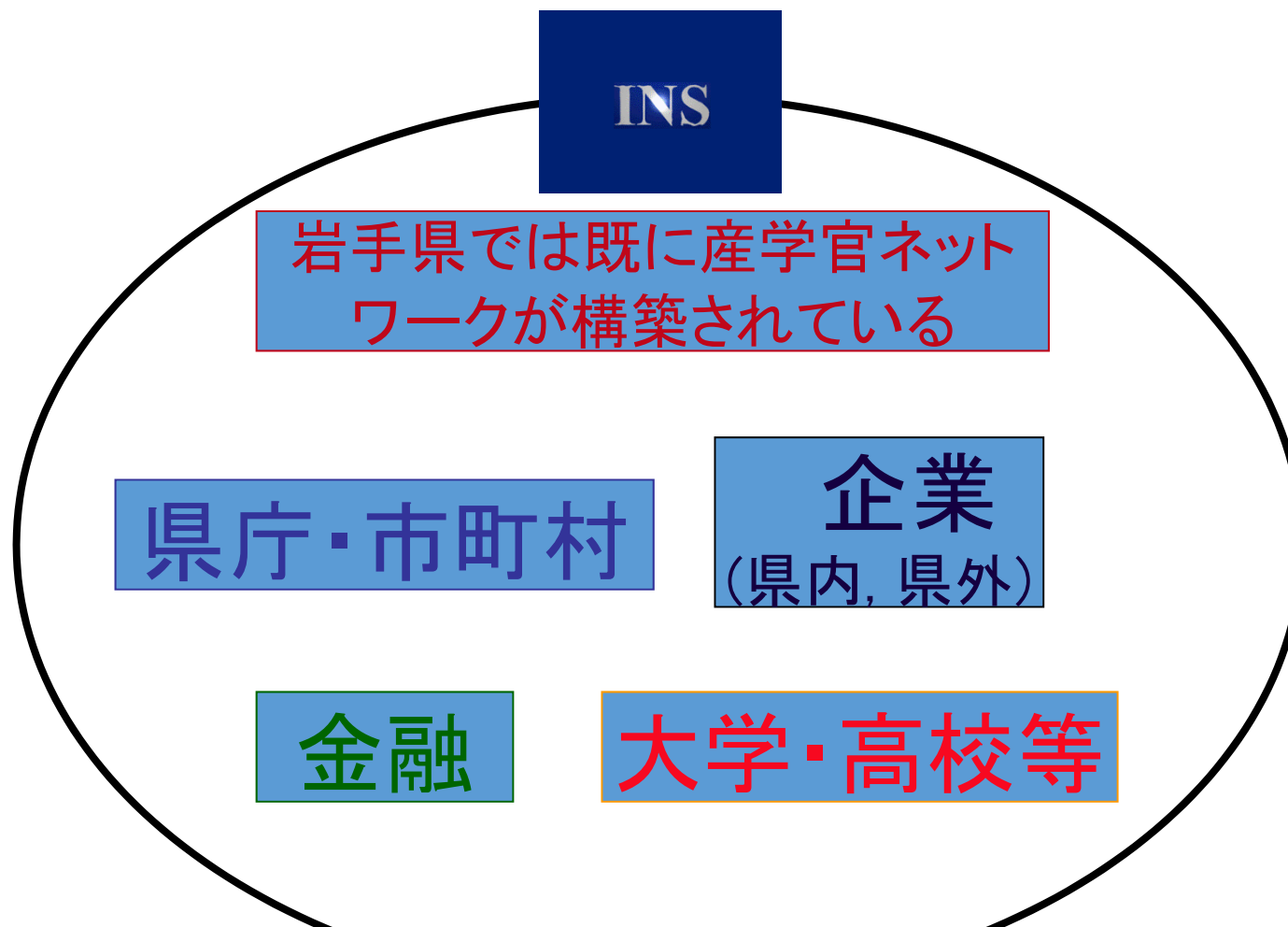
INS

INSと岩手大学



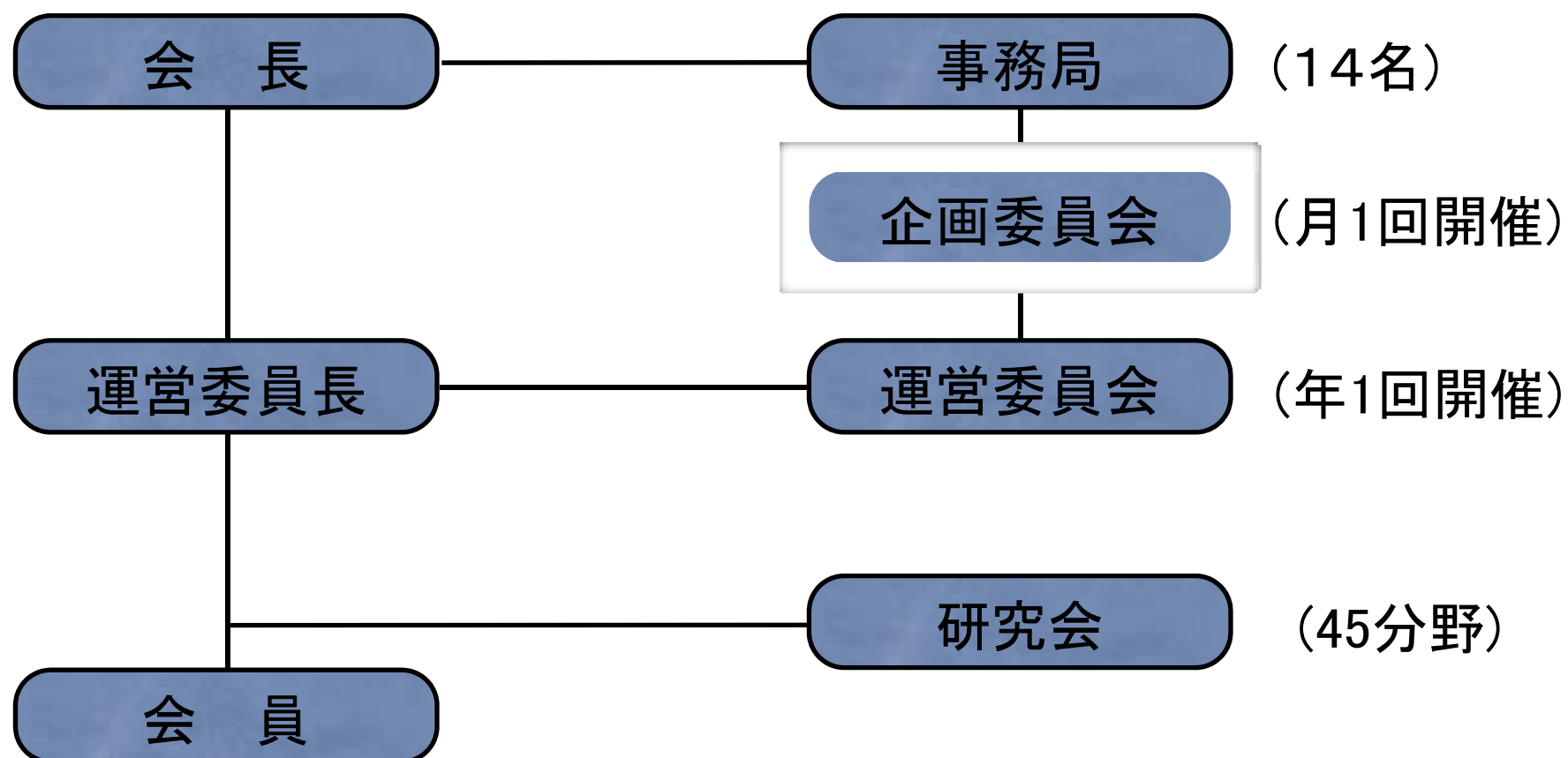
INS

岩手県の産学官民ネットワーク



◇産学官民連携が商工会議所、金融、高等学校まで拡大

- 岩手大学工学部若手教員が呼びかけて組織した岩手県の産学官交流組織(任意団体、工学部に事務局)
- S62年から自主的に交流し、H4年3月に組織化
- 基本は個人資格で参加
- 会員1048名(産517名、学215名、官316名)(H26.10)
(個人会員946, 法人会員106)
⇒個人会費1千円、法人会費1口1万円
- 公開講演会、公開講義、研究成果展示会、産学官交流会、企業講座など
- 45の研究会(共同研究の企画・実施)
- 岩手大学地域連携推進機構・研究推進機構と連携して活動



INS

事務局

役員

会長

副会長

元学長

谷村電気精機(株)

東日本機電開発(株)

平山 健一

谷村 久興

水戸谷 完爾

運営委員長

工学部応用化学・生命工学科

大石 好行

事務局長

工学部応用化学・生命工学科

小川 智

INS事務局

応用化学・生命工学科

清水 健司

マテリアル工学科

平塚 貞人

マテリアル工学科

山口 明

電気電子・情報システム工学科

高木 浩一

機械システム工学科

岩渕 明

機械システム工学科

清水 友治

機械システム工学科

西村 文仁

放送大学岩手学習センター

斎藤 徳美

社会環境工学科

齊藤 貢

電気電子・情報システム工学科

木村 彰男

社会環境工学科

小山 猛

研究推進機構

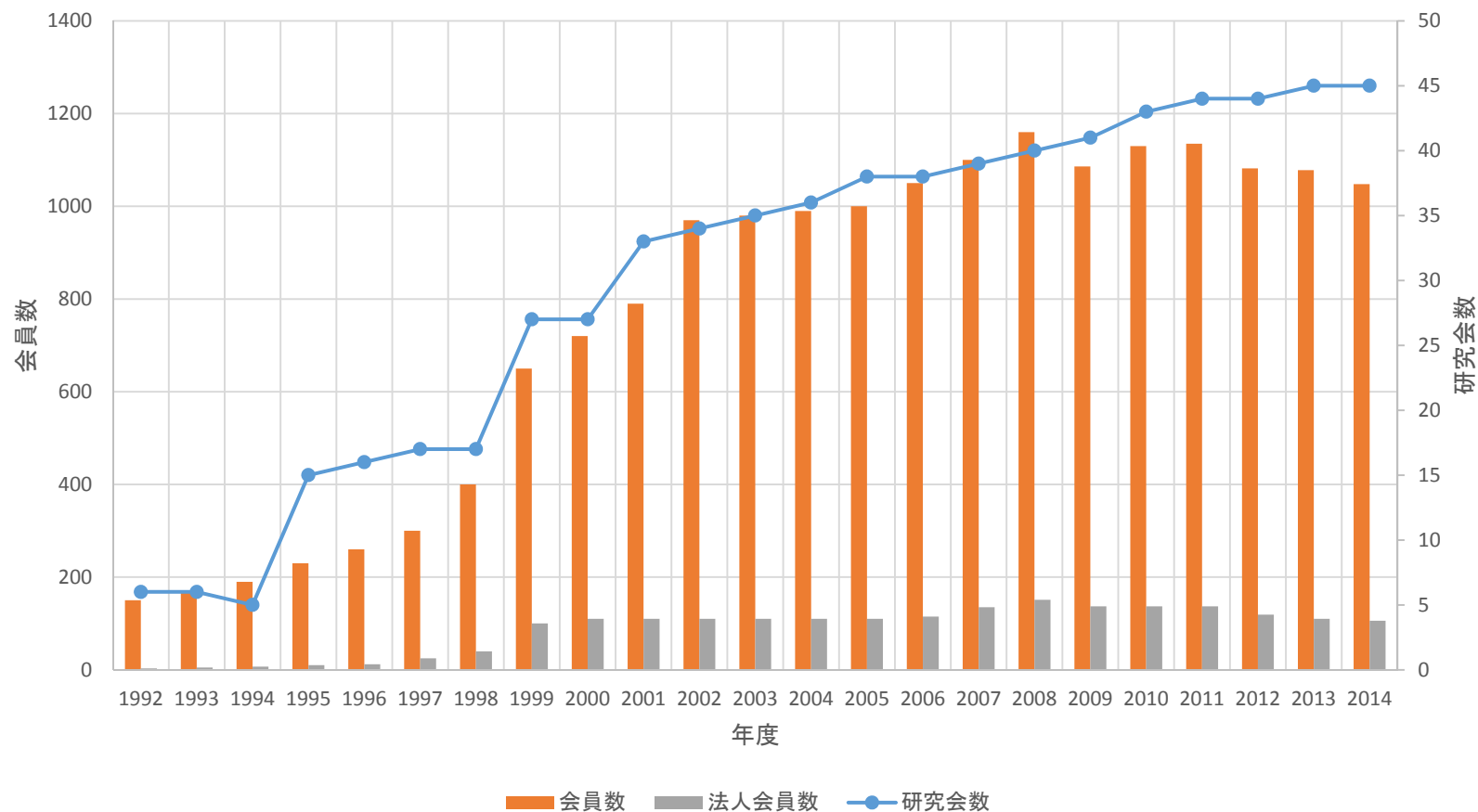
小川 薫

地域連携推進機構

今井 潤

INSの概要

- ◆ 工学部若手教官が呼びかけて組織した産学官交流組織
- ◆ 基本は個人資格で参加
- ◆ 会員1048名（産527名、学215名、官316名）（H26.10）



INSの主な事業（1）

- ・ 年 4 回の公開講演会 & 交流会
 - 総会 & 春季講演会（5 月）H4～
 - 夏季講演会「環境とエネルギー」（8 月）H4～
 - 秋季講演会（11 月）H4～
 - 冬季講演会 & ファミリーパーティ（12 月）H4～
- ・ 地域産学官交流会 H5～
 - 地域の要望に応じて出向いて開催
- ・ 企業講座 H5～ 教員が企業に出向いて講義
- ・ イブニングフォーラム H12～
 - 企業の方を大学に迎えて自由に意見交換
- ・ 公開講義「岩手大学講義室への招待」H6～
 - 教員等が市民の方を対象に研究内容を紹介
 - 土曜の午後開催

INSの主な事業（2）

- ・ イーハートーブの科学と技術展 H8～
県内各地で開催、市民＆子供達に科学技術を紹介
- ・ 公開セミナー「大学は面白い」 H7～
高校生を対象に大学教員が人生経験や研究内容を紹介
- ・ 高校教育研究会物理＆化学部会合同講演会 H7～
高校の先生との交流
- ・ 国際シンポジウム H9～
留学生＆海外研究者との交流
- ・ 他県との交流会（INS in @@） H5～
（大阪H13～、東京H15～、東海H17～、北海道H18～）
- ・ ゴルフコンペ（春＆秋） H8～
- ・ 所属研究会： 4 5 研究会

INS

INS総会講演会(2014.5.24)



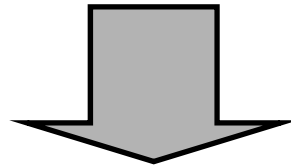
同 交流会



★ I N S の 4 5 の研究会

→産学官で専門的な分野を議論する場

→共同研究の推進母体（必ず産・学・官）



- ・ 会長は大学の教官以外に、県庁、企業など
- ・ 運営は各研究会会長の自由裁量

講演会中心

技術相談や共同研究センター

毎月開催や年2～3回開催など

研究会に対する支援は無い

⇒大学の共同研究の実績づくりに貢献

研究会リスト

1	トライボロジー	17	環境リサイクル	33	岩手SDM
2	エネルギー変換技術	18	街づくり	34	知的財産活用
3	地熱利用	19	磁場活用	35	ものづくり
4	CO2	20	デジタルエンジニアリング	36	いわてミミズ
5	ニューマテリアル	21	人と動物のこころ	37	CSR/環境人材育成
6	有機素材活用	22	地域と情報システム	38	土づくり
7	シミュレーション	23	起業化	39	IP0・企業成長
8	宇宙航空	24	住まい環境	40	雇用
9	スーパーファインポリマー	25	生体科学	41	男女共同参画推進
10	電子デバイス	26	ギガビットネットワーク	42	水と環境
11	材料プロセス	27	いわて金型	43	いわてコーディネート
12	地盤と防災	28	国際産業交流	44	いわて雑穀
13	海洋と社会	29	未利用資源活用	45	地元食の研究会
14	環境マネジメント	30	マーケティング		
15	福祉工学	31	グリーン水素		
16	構造物設計	32	地域とスポーツ		

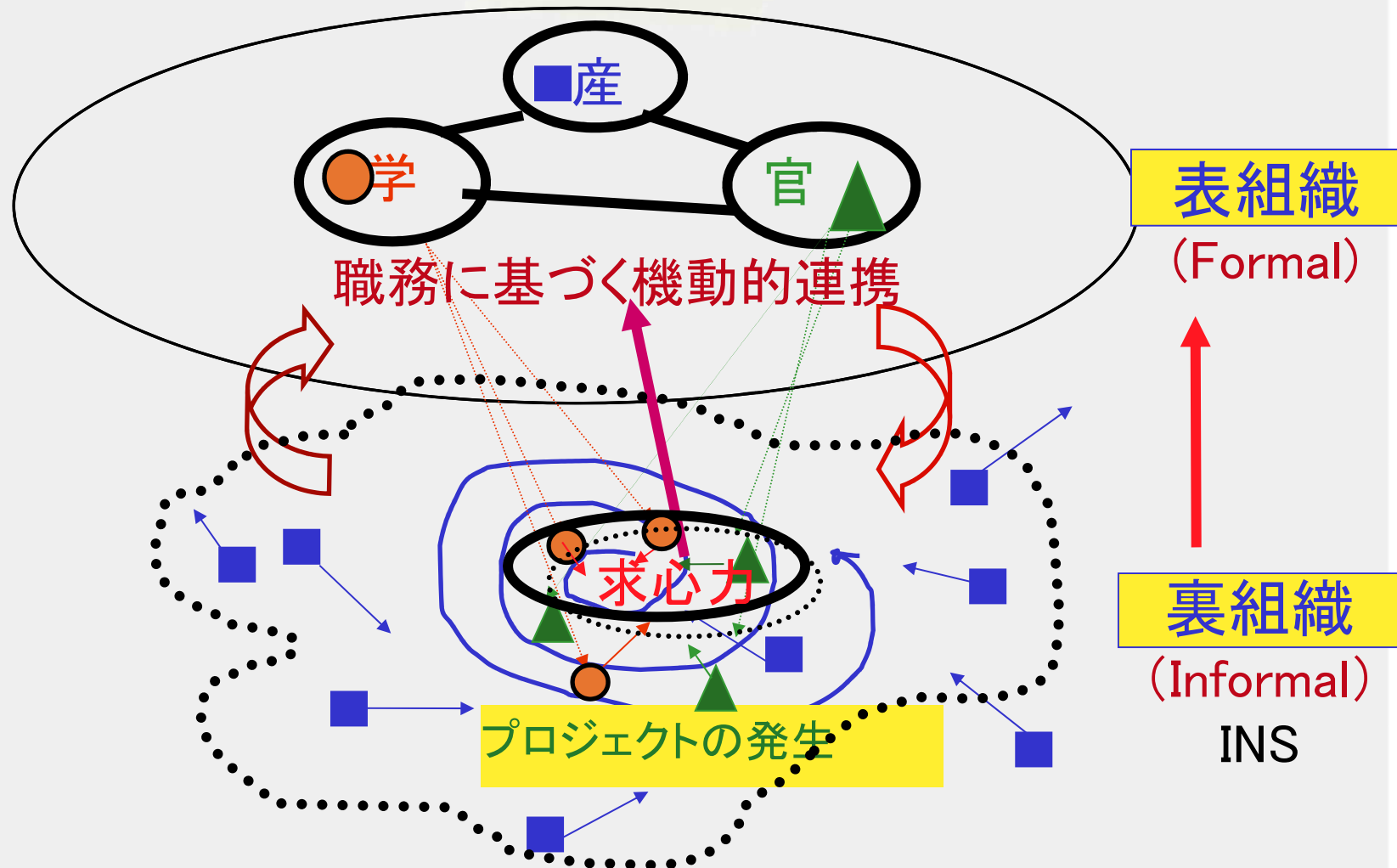
INSの特徴(1)

- キーパーソンの存在
 - ・ 中心人物とそれに共鳴した教員グループの存在
 - ・ それを支援した県職員と県内に就職した卒業生
- 大学主導の交流組織（任意団体）
 - ・ 大学に対する安心感
 - ・ 人事異動がない、築いたネットワークが切れない
- 個人参加（肩書なし、ネクタイなし、インフォーマル）
 - ・ 組織を離れて自由に活動できる（本音と言える）
 - オープン、アメーバ、ボトムアップ、ボランティア
- 交流の輪を拡大
 - ・ 工学部→学内、県立大、市町村、商工会議所、高等学校、
県外との交流

INSの特徴(2)

- 大学の敷居を低くする努力
 - ・岩手大学は地域貢献を目標(地域のシンクタンク)
 - ・出張交流会
 - ・地域からの相談に応じる姿勢
- ニーズにあった企画、先取りした企画
 - よいことはやれる範囲ですぐにやる
 - ・大学は面白いH7、イーハトーブ科学と技術展H8
ゴルフコンペH8、クリスマスパーティーH8、
国際シンポジウムH9、産学連携相談室「110番」H10、
企業講座H12、イブニングフォーラムH12、
MIU Cafe H20、デザインワークショップH25

INSのイメージ



岩手県内外に産学官連携が拡大、シナジー効果発揮

農学部が産学官交流組織「岩手農林研究協議会」(AFR)を設立

(14研究会発足)

教育学部が産学官交流組織「岩手県教育研究ネットワーク」(IEN)を設立

(31研究会発足)

岩手県立大、市町村、商工会・会議所、知事、市長、副市長まで拡大

岩手大学と県内11市村が相互友好協定を締結

大学と企業との共同研究に貢献

大型研究開発プロジェクト導入と事業化に貢献

大学発ベンチャーの誕生

一緒にやっていくという、雰囲気

県外からの訪問調査

INSは産学官連携組織のモデル？

→「**地域の中規模大学を
中心とした交流組織**」です。

★県外からの訪問調査



INS

INS連携と他県での設立状況

第1回INS全国大会 2007.9.8. 盛岡(岩手大学)

27都道府県から250名参加

第2回 大阪、第3回弘前、第4回岡山

第8回 産学官民コミュニティ全国大会
2014.9.20 小倉(九州工業大学)



単行本: 232ページ

出版社: 学芸出版社

関西ネットワークシステム 著

ISBN-10: 4761525045

発売日: 2011/3/1

¥2,310



イノベーションネットアワード2012

優秀賞

地域産業振興・活性化を目指した産
学官民のネットワークの形成

岩手ネットワークシステム(INS)

実施責任者

岩手大学 教授 清水 健司氏



大学教員がINSに参加する理由

- 大学という組織ではできないことができる
→「大学は面白い」、「中小企業相談」など
- 大学内の他分野の研究(者)情報が入る
- 地域ニーズがわかる →共同研究に発展
- 行政からの協力と情報が入る →研究開発支援
- 情報を発信できる →岩手の産学官連携が注目
→岩手日報社文化賞受賞
→経済産業大臣賞受賞
→イノベーションネットアワード2012優秀賞受賞
- 大学、岩手を変えることができるかもしれない？

●INSのキーワード

個人参加型

アメーバ、ボトムアップ、オープン、ボランティア……
「だれでも、やりたいことを、やれる範囲で、すぐやる」

●INSの活動

「個人参加の交流の場を大切に」

⇒「ニーズに対応した活動」 すぐに成果は求めない

活用して下さい
地域と歩む岩手大学とINS

<http://www.ins.ccrd.iwate-u.ac.jp/>